

# メッセージ

新社会党中央執行委員長 岡崎宏美

被爆 75 周年原水禁世界大会にあたり、新社会党を代表して、心から連帯の挨拶を申し上げます。

今年はヒロシマ・ナガサキの被爆と戦争終結から 75 年、核不拡散条約 (NPT) の発効から 50 年という大きな節目の年であり、貴大会開催の意義は益々大きくなっていると思います。

ヒロシマ・ナガサキへの原爆投下の教訓から「核と人類は共存できない」との理念は 2017 年に国連で採択された核兵器禁止条約に結実し、批准国が年々増えて、条約発効に必要な批准国数 50 か国にあと 11 か国と迫っていて、世界で核廃絶への機運が高まっています。

また、福島原発事故は世界に「フクシマ」を教訓化させ、原発依存から再生可能エネルギーを始めとした脱原発社会へと舵を取り始めています。

こうした状況にあっても、アメリカトランプ大統領に追随する安倍政権は、「核の傘」に依存し、核兵器禁止条約に否定的な態度をとり、依然として原発を「重要なベースロード電源」と位置づけています。

また、沖縄県民の反対の声を無視し、辺野古新基地建設を強行し続けています。

私たちは、これらの政策を転換させなければなりません。

今こそ日本は、唯一の被爆国であり、福島原発事故の経験と教訓を活かして、核兵器廃絶と脱原発を世界に発する責務があります。新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るっている事とあいまって「一人ひとりの生命を守る事」が重要になっています。より広範な仲間と結びつき、改憲を許さず、核と戦争のない社会を目指して、共に全力をあげ、前進しましょう！貴世界大会が様々な課題に対して大きな成果をあげられることを期待します。